2022.6.23　　No.94

芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡隆　　連絡先 090-7118-2312
http://ashiya9.web.fc2.com/

芦屋「九条の会」17 周年記念のつどい開催

歴史に戻って理想を語ることが大切

6 月 12 日、芦屋「九条の会」は 17 周年記念のつどいを開催しました（芦屋市・市教委後援）。伊藤芦屋市長から、平和への想いが溢れたメッセージが届きました（同封しています）。藤原辰史さん（京都大学人文科学研究所准教授）による「ウクライナ侵攻と日本の立場―日本国憲法前文の使用法―」と題しての講演会に、会場一杯の参加がありました。

ウクライナの現代史を見る視点についての話では、目からうろこが何枚も落ちました。豊かな穀倉地帯であったが故に、繰り返し大国に侵略された歴史があるあること、貧困からくる問題、また歴史の裏が語られました。時間が足りなかったのですが、最後は、日本国憲法前文と９条について語られました。その部分を以下に要約します。

沖縄が中国とアメリカの紛争の中で盾にされている危機感をメールで伝えられていた具志堅隆松さんという方から、「ウクライナのことは沖縄の人にとって他人ごとではない。」というメールが来ました。なぜなら奄美大島から与那国島までの地域には今自衛隊の基地ができていて軍事要塞化していて、すごいことになっているということ。ウクライナ情勢の危機感の中で、日本は再び沖縄・南西諸島を戦場にするということを日米首脳共同宣言で言明した（５月）からです。日本は西側にひきずられ過ぎている。もちろんロシアのやっていることは許されない、それに対し反対の声明を出していくってことは当然だが、ただし今日申し上げた様々な疑問を抱えながらやっていくべき。そのうえで私たちがもう一つたどり着くべき原点は、沖縄戦の記憶にもう一回戻ってみるということ。

憲法前文は「お花畑」ではなくリアル

日本国憲法前文に書いてあることは、今では、「お花畑だ」と言われることがある。でもここには、「人類普遍の原理」とか「名誉ある地位を（国際社会で）占めたい」という非常に強い理想的な言葉が書いてあるけれど、私自身はこの言葉はすごいリアルだと思う。それは、「戦争であれだけの人が亡くなっている、金輪際戦争はやめてくれ」ということから出てきているから。そこで謳われているのは、西側東側どちらかに立つのではなくて、あくまで中立をさぐりたとえ組みしたとしても内部から批判しながらバランスをとる役割を果たすということのように僕には響いている。

これこそ今求められているリアルなポリティクスだと思っている。（裏に続く）